

# モード Mode は語る

中野 香織

## 英王室のブランド力

エリザベス女王が亡くなられてから国葬がおこなわれるまでの間、女王に関する逸話が様々に報道された。在位70年の功績はもとより、普段の生活、家族のスカンダル、ファッションに至るまで、女王にまつわる情報が絶えず流された。

英王室の一連の儀式が退屈にならなかった理由の一つは、権威を担うファミリーの「人間らしさ」の表現に感情を揺さぶられたためである。王室離脱によって軍務を離れ、最高位の礼装である軍服を着る資格を失っていたヘンリー王子が、チャールズ新国王のはからいで、「孫たちによる警護」のときだけ特別に軍服を



キャサリン妃は、エリザベス英女王が生前に愛用していた3連パールネックレスを身につけ追悼昼食会に臨んだ＝A P

着ることを許された。久々に軍服を着たヘンリー王子の表情から複雑な心の中がうかがえた。また、女王が生前に愛用していた3連パールネックレスを早速キャサリン妃がつけて登場したときは、伝統を継承していくという妃の覚悟が見てとれた。

君主としてはもとより、一人の人間としても別格の存在だったエリザベス2世を、英国のラグジュアリーブランド統括団体であるウォルポールは、「究極のラグジュアリーブランド」とみなした。同団体の発行する「ブック・オブ・ブリティッシュ・ラグジュアリー22/23」の「も

っと女王のようになろう」という記事では、女王の肖像とともに次のような文言が最後に添えられている。

「あなたが体現することと、相いれないことは何か、自覚せよ。あなた自身について確かなこと、取り換えのきかないことは何か、自覚せよ。あなたが体現することを忘れてはいけないし、自分ではないものになろうとしてもいけない。本物であれ。信頼に足る人間であれ。個性的であれ。柔軟であれ。」

旧態を保ち、時代錯誤とみなされがちな英王室がなぜ21世紀も世界からの注目を浴び続けるのか。ブランドの強さの秘密は、女王が一貫して見せたかような姿勢、そして時に規範から逸脱する弱さも見せるファミリーの人間くさいあり方、その総合力にあることに気づかされる。

規範と人間らしさに根源